



「スタンフォードの  
自分を変える教室」  
大和書房 ケリー・マクゴニガル  
税込 1,680円

スタンフォード大学の超人気講義、ついに日本上陸。心理学、神経科学から経済学まで、最新の科学的成果を盛り込み、受講した学生の97%の人生に影響を与えた「驚くべきレッスン」。



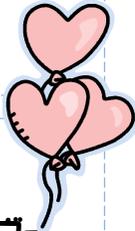
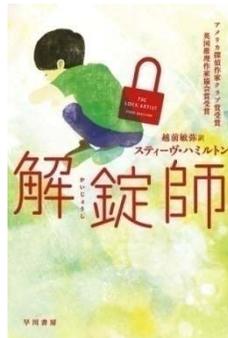
「できる大人のモノの言い方大全」  
青春出版社 話題の達人倶楽部  
税込 1,050円

ちょっとした違いで印象がこうも変わるのか！本書では、ほめる、もてなす、断る、謝る、説明する、反論する…。どんな状況でも、覚えておけば一生使えるフレーズを完全収録。好感度アップすること間違いなしの決定版！



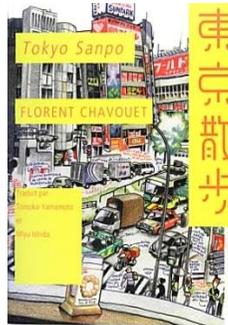
「解錠師」  
早川書房 スティーヴ・ハミルトン  
税込 987円

八歳の時にある出来事から言葉を失ってしまったマイク。だが彼にはどんな錠も開くことが出来る才能があった。プロ犯罪者として世界を生きる少年の光と影を描き、世界を感動させた傑作ミステリー。



「東京散歩」  
飛鳥新社 フロラン・シャヴェ  
税込 2,000円

ひとりのフランス人青年が、半年のあいだ毎日自転車に乗って目に留まった景色をスケッチして歩いた、今までにはない東京散歩ガイド。[目次] 町屋、池袋、高田馬場、お寺落合、大久保、上野、御茶ノ水ほか…



# 第148回芥川賞・直木賞受賞作

芥川賞 「abさんご」  
文藝春秋 黒田夏子 税込 1,260円



75歳の「新人女性作家」のデビュー作。全文横書き、かつ「固有名詞」を一切使わないという日本語の限界に挑んだ超実験小説ながら、その文章には「昭和」の知的な家庭に生まれたひとりの幼子が成長し、両親を見送るまでの美しくしなやかな物語が隠されています。

直木賞 「何者」  
新潮社 朝井リョウ 税込 1,575円



「あんた、本当は私のこと笑ってるんでしょ？」学生の名刺、海外ボランティア、学生団体リーダー、学際実行委員—この世界を組み変える力は、どこから生まれ来るのか。就活の情報交換がきっかけで集まった五人の、切実な現実。影を宿しながら光へ向いて進む就活生の自意識をあぶり出す、書き下ろし長編小説。

直木賞 「等伯 上・下」  
日本経済新聞出版社 安部龍太郎 各税込 1,680円



①→「あなたの絵には真心がある」養父母の非業の死により故郷を追われ、戦のただなかへ。激動の戦国の世と法華の教えが、画境を高みに誘う。  
②→誰も見たことのない絵を一狩野派との暗闘、心の師・千利休の自刃、秀吉の世に台頭する長谷川派を次々と襲う悲劇。亡き者達を背負い、おのれの画境に向かう。

学校名 \_\_\_\_\_ 先生名 \_\_\_\_\_

★オンラインでの注文も可能です★

e-hon → <http://www.e-hon.ne.jp>



e-hon ブックラック



Tel 099-206-5501 Fax 099-206-5505  
ホームページ <http://www.b-taiyo.co.jp/>  
アドレス [b-taiyo@b-taiyo.co.jp](mailto:b-taiyo@b-taiyo.co.jp)

4月9日(火)  
大賞発表

# 全国書店員が選んだ いちばん!売りたい本 2013年本屋大賞ミステリー

全て税込価格表示です。



「64」文藝春秋 横山秀夫 1,995円  
D県史上最悪の重要未決事件「64」。この長官視察を巡り、刑事部と警務部が敵対する。その理由とは?さらに衝撃の展開が…。警察小説の真髄が、人生の本質が、ここにある。

「楽園のカンヴァス」新潮社 原田マハ 1,680円  
2012年第25回 山本周五郎賞受賞。  
大富豪の屋敷に掛かる「一枚の絵」。その真贋判定を迫られた若き二人の研究者。期限は七日間―絵画の「本当の価値」に迫る傑作アートサスペンス。

「光圀伝」角川書店 沖方丁 1,995円  
何故この世に歴史が必要なのか。  
生涯を賭した「大日本史」の編纂という大事業。大切な者の命を奪ってまでも突き進まねばならなかった、孤高の虎・水戸光圀の生き様に迫る。

「ふくわらい」朝日新聞出版 西加奈子 1,575円  
主人公は人肉を食べたことで有名な編集者。  
感情を表さない彼女は猪木に憧れるレスラー等、  
男性との付き合い方で人との距離を縮めていく。

「百年法上・下」角川書店 山田宗樹 各1,890円  
6発の原爆が投下され終戦を迎えた日本で、ある法律が制定された。通称「百年法」。新技術で不老を与えるかわりに、100年後に死ななければならぬというが…。困難を迎えた現代日本に投げかける衝撃の問題作!

「ソロモンの偽証 第1~3部」新潮社 宮部みゆき 各1,890円  
雪をまとって校庭に降り立った悪意。  
それはさらなる犠牲を求めて校舎を彷徨った。  
五年振りの現代ミステリー全三巻。

「世界から猫が消えたなら」マガジンハウス 川村元氣 1,470円  
僕の葬式。僕の枕元に集まる人はどんな人たちだろうか。かつての友達、かつての恋人、親戚、教師、同僚たち。そのなかで僕の死を心から悲しんでくれる人は、何人いるのだろうか。僕と猫と陽気な悪魔の7日間の物語。

「晴天の迷いクジラ」新潮社 窪美澄 1,575円  
『ふがいない僕は空を見た』の著者が放つ待望の二作目。  
壊れかけた三人が転がるように行きついた、その果ては?  
人生の転機に何度も読み返したくなる、感涙の物語。

「屍者の帝国」河出書房新社 伊藤計劃・円城塔 1,890円  
フランケンシュタイン技術が全世界に拡散した19世紀末、秘密諜報員ワトソンの冒険が始まる。日本SF大賞作家x芥川賞作家の大作。  
早逝の天才・伊藤計劃の未刊の絶筆が、盟友・円城塔に引き継がれて遂に完成。

「きみはいい子」ポプラ社 中脇初枝 1,470円  
夕方五時までは家に帰らせてもらえない子ども。娘に手を上げてしまふ母親。求めていた、たったひとつのもの。それぞれの家にそれぞれの事情がある。それでもみんなこの町で、いろんなものを抱えて生きていく。

「海賊とよばれた男上・下」講談社 百田尚樹 各1,680円  
永遠のOの百田尚樹氏渾身の書き下ろし。  
敵は七人の魔女。英国海軍の包囲をかいくぐった日本人の実話をもとにした壮大な叙事詩。